

uhs



OSAKA UNIVERSITY
OF HEALTH
AND SPORT SCIENCES

スポーツと研究をつなぐ人になる。



GRADUATE SCHOOL OF SPORT AND EXERCISE SCIENCES

OSAKA UNIVERSITY OF HEALTH AND SPORT SCIENCES

大阪体育大学大学院

スポーツ科学研究科

博士（前期・後期）課程

夜間開講の科目は
オンライン
遠隔授業で実施

昼夜と夜間の開講科目は
隔年に入れ替え

社会人のための
リカレント教育
支援制度が充実

本学独自の
昼夜開講制

大学院 研究科長

浜田 拓 [HAMADA Taku]

専門分野：スポーツ生理学

学 位：博士（人間・環境学） 京都大学

主な業績：

Brain and muscle adaptation to high-fat diets and exercise: Metabolic transporters, enzymes and substrates in the rat cortex and muscle. Brain research, 2020.

Acute exercise increases brain region-specific expression of MCT1, MCT2, MCT4, GLUT1, and COX IV proteins. J. Appl. Physiol, 2014.

Possible involvement of AMPK in acute exercise-induced expression of monocarboxylate transporters MCT1 and MCT4 mRNA in fast-twitch skeletal muscle. Metabolism, 2013.

大学院 担当授業：

運動生化学特論、運動生化学特講

「広い視野」「豊かな感性」 「発想力」を持って探究を

本学大学院は、博士前期課程では、高度なスポーツ科学の知識を持ち実践的な指導を行える専門家の養成を、博士後期課程では、高度な専門知識に裏打ちされた斬新な研究を行う研究者の養成を目的としています。

研究教育体制は、文化・社会科学領域、身体運動・コーチ科学領域、健康・医科学領域の3つの専門領域を基盤とし、それに基づき、さらに5領域（スポーツ文化、競技スポーツ、健康スポーツ、学校体育、レジャー・レクリエーション）と11学問分野（保健・体育科教育学、スポーツ史・哲学、スポーツ社会学、スポーツマネジメント、スポーツ心理学、アダプテッド・スポーツ、バイオメカニクス、教授学、スポーツ生理学、スポーツ医学、スポーツ栄養学）の組み合わせにより、スポーツ科学の研究・教育に対する多様なニーズに応えられるように編成されています。

また、保健・体育分野とスポーツマネジメント分野においては、現役の保健体育教員や社会人に対応したスポーツ科学実践プログラムを開設しており、リカレント教育も推進しています。

このような研究教育体制の下で、スポーツ科学の研究を通じて、体育教育や運動・スポーツによる健康・生きがいづくり、スポーツマネジメント、競技力の向上などの分野に貢献できる人材と、高度化・グローバル化するスポーツ科学の発展に貢献できる研究者を養成します。

大学院生の皆様には、スポーツの持つ可能性を「広い視野」「豊かな感性」「発想力」を持って探究し、創造性に富んだ研究に挑戦してほしいと思います。

学位授与

博士後期課程に3年以上在学し、10単位以上を修得かつ必要な研究指導を受け、博士論文の審査に合格した者には、博士（スポーツ科学）が授与されます。

博士前期課程に2年以上在学し、30単位以上を修得かつ必要な研究指導を受け、修士論文または特定の課題についての研究成果の審査に合格した者には、修士（スポーツ科学）が授与されます。

資格

博士前期課程では、教育課程免許法の定める所定の単位を修得すると、中学校・高等学校教諭専修免許状（保健体育）が取得できます。但し、すでに中学校・高等学校教諭一種免許状（保健体育）を取得している方に限ります。

奨学金制度

1. 大阪体育大学大学院研究奨学金制度

本学独自の給付型奨学金制度です。

博士前期課程：各年次5名で、1年間給付します。原則として一般選抜A日程で3名、一般選抜B日程で2名を出願時に募集します。

博士後期課程：各年次3名で、3年間給付します。一般選抜A日程のみの募集とするが、A日程で3名に満たない場合は、一般選抜B日程で残りの枠を追加募集します。

2. 日本学生支援機構

貸与型の奨学金制度です。貸与額は博士前期課程5万円または8万8千円、博士後期課程は8万または12万2千円を貸与することができます。

3. その他の奨学金

各種財団の奨学金制度がありますので、随時案内しています。外部団体の奨学金のため、競争率は高いですが、例年、数名の方が採択されています。

より科学的に。より実践的に。より高度に。よりプロフェッショナルに。

教育の目標

本学大学院スポーツ科学研究科は、高度なスポーツ科学の知識を持ち実践的な指導を行える専門家と、高度な専門知識に裏打ちされた斬新な研究を行う研究者を養成します。

博士前期課程

学部における体育・スポーツの教育を基盤に、スポーツ科学の研究を通じて、体育教育や運動、スポーツによる健康づくり、生きがいづくり、スポーツマネジメント、スポーツ競技力の向上などに高度で専門的な知識、技能を身につけた高度専門職業人と研究者を養成します。

博士後期課程

博士の学位を取得して、高度化する体育・スポーツ科学の発展に貢献できる研究者を養成します。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

大学院における教育課程編成の方針

- (1) 大学院スポーツ科学研究科は、スポーツ科学専攻の教育上の目的を達成するために必要な授業科目を開設し、研究指導の計画を策定し、体系的に教育課程を編成する。
- (2) 大学院スポーツ科学研究科博士前期課程は、教育課程の編成に当たっては、専攻分野に関する高度な専門知識及び能力を修得させるとともに、当該の専攻分野に関連する分野の基礎的教養を涵養するように適切に配慮する。
- (3) 大学院スポーツ科学研究科博士後期課程は、教育課程の編成に当たっては、専攻分野に関する諸課題を解決するために自立して研究を計画・実行・推進するための高度な専門知識及び能力を修得させる。
- (4) 大学院スポーツ科学研究科は、5領域（スポーツ文化領域、競技スポーツ領域、健康スポーツ領域、学校体育領域、レジャー・レクリエーション領域）と10学問分野（スポーツ史・哲学、スポーツ社会学、スポーツマネジメント、スポーツ心理学、バイオメカニクス、教授学、スポーツ生理学、スポーツ医学、スポーツ栄養学、アダプテッド・スポーツ）を組み合わせて、スポーツ科学の研究・教育の多様なニーズに応える。

大学院における教育課程実施の方針

- (1) 大学院スポーツ科学研究科は、専門性の一層の向上を図り幅広い学識を涵養するため、研究領域 × 学問分野表に基づく授業科目を充実させ、多様な授業科目の履修から研究指導へ有機的につながる体系的な教育を行う。また、本研究科の「学位授与の方針」に定めた修了時までには修得すべき知識・能力等がカリキュラム体系のなかでどのように養成されるのかを示すため、シラバスで「学位授与の方針」で定められた知識・能力等との対応を示し、それら諸能力等を修得するプロセスを履修プロセス概念図で示す。
- (2) 大学院スポーツ科学研究科博士前期課程は、学生の主体的で活発な勉学意欲を促進する立場から、インターンシップなどの授業時間外の多様な学修研究の機会を通じ、諸課題に積極的に挑戦させる。
- (3) 大学院スポーツ科学研究科博士後期課程は、学生の活発な研究活動を促進する立場から、海外研究インターンシップなどの機会を通じ、国際的な見地に立った研究活動に積極的に挑戦させる。
- (4) 大学院スポーツ科学研究科は、成績評価の公正さと透明性を確保するため、成績の評定は、各科目に掲げられた授業の狙い・目標に向けた到達度を目安として採点する。
- (5) 大学院スポーツ科学研究科は、博士前期課程及び博士後期課程の学位論文審査体制を充実させ、厳格な審査を行う。
- (6) 大学院スポーツ科学研究科は、博士前期課程スポーツ科学実践プログラム受講者の特定の課題についての研究成果の審査体制を充実させ、厳格な審査を行う。

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

- (1) 博士後期課程にあつては、研究科の定める期間在学して、研究科の教育と研究の理念や目的に沿った研究指導を受け、かつ所定年限内に研究科が行う博士論文の審査及び試験に合格し、課程を修了することが学位授与の要件である。
- (2) 博士後期課程にあつては、研究者として自立して活動し、また高度な専門業務に従事するために必要な能力とその基盤となる学識を身につけているかどうか、課程修了の基準である。
- (3) 博士前期課程にあつては、研究科の定める期間在学し、研究科が教育と研究の理念や目的に沿って設定した授業科目を履修して、基準となる単位数以上を修得し、課程を修了することが学位授与の要件である。課程修了に当たっては、研究科が行う修士論文の審査及び試験に合格することとする。なお、スポーツ科学実践プログラムを選択した場合、修士論文の審査及び最終試験を、特定の課題についての研究成果の審査及び最終試験に代えることができる。
- (4) 博士前期課程にあつては、幅広い知識に裏打ちされた専門領域における研究能力と、高度な専門性を必要とする職業を担うための優れた能力とを身につけているかどうか、課程修了の基準である。
- (5) 研究が、高い倫理性と強固な責任感をもって実施され、人類の平和と安寧に貢献できるものとなっているかも、大学院課程修了の際に考慮されるべき重要な点である。

社会人の学びの場として

本学大学院では、社会人、アスリート、大学教員など、仕事や競技を続けながら、大学院生として両立されている方が多く在籍しています。また、2022年度からは昼夜開講制も導入しました。長期履修制度やスポーツ科学実践プログラムなど、様々な方向から支援します。

昼夜開講制【博士前期課程が対象】

社会人のリカレント教育（再教育・高度化教育）の要請に応える開かれた大学院をめざし、昼夜開講制を実施しています。最短就業年数の2年間で夜間開講の科目（原則として18:00～21:10の間に開講）を受講し、修了に必要な単位を取得することができます。授業時間は下記の通りです。

授業時間	第1時限	9:00～10:30
	第2時限	10:40～12:10
	第3時限	13:00～14:30
	第4時限	14:40～16:10
	第5時限	16:20～17:50
	第6時限	18:00～19:30
	第7時限	19:40～21:10

夜間開講科目は、遠隔授業（オンライン）で開講されますので、自宅や職場で受講することが可能です。
詳細は、昼夜開講制リーフレットをご覧ください。

働きながらの学習を支援。2年の学費で3年間または4年間の履修ができる「長期履修制度」【博士前期課程が対象】

社会人で、事前に申請し、認定を受けた方は、「長期履修制度」により3年または4年まで延長し、在籍することができます。働きながらの学びをサポートする制度も充実しています。

※就業されている方が対象（非正規雇用も含）で、2年間の修業年限で教育課程履修が困難であること等の事前審査が必要です。

スポーツ科学実践プログラム【博士前期課程が対象】

スポーツ科学実践プログラムは、高度専門職業人の養成を主たる目的として、保健・体育科教育学分野およびスポーツマネジメント分野に開設しました。高度で専門的な知識・技能を身につけてから社会で活躍したいという学部生、既に社会で活躍しているが、さらにスキルアップを図りたい社会人に向けたプログラムです。

このプログラムの特徴は、2年次に「修士論文」ではなく「特定の課題に関する研究成果」を選択できることです。「特定の課題に関する研究成果」とは、事例報告、フィールドワークによる実態調査、授業実践報告などを指しますので、社会人にとっては、ご自身の仕事に絡めた内容で作成することができます。

長期履修制度と組み合わせることによって、仕事を続けながら修士（スポーツ科学）の学位を取ることができます。

[研究施設等]



スポーツ医・科学実験室

三次元磁気自動動作解析システム、地面反力計、筋電計、等速性筋力測定器、体幹筋力測定器などが完備され、スポーツ医学の実験や測定が行われます。



生理・生化学実験室

運動生理・スポーツ医学的研究を行うため、スポーツ医学実験室、生化学実験室、生理学実験室など多様な実験室が完備。



総合実験室

気温、湿度や風速が設定できる環境制御室をもつ実験室。[暑・寒環境での運動における留意点]など、さまざまな実験が行われます。



バイオメカニクス実験室

ビデオ画像をパソコンに取り込み、人の動作やスポーツ技術・戦術などを解析します。同時に地面反力やEMG、超音波画像なども測定します。



スポーツ心理学実験室

実験室・データ処理室・パッケージルーム・カウンセリングルームの4ブロックで構成。スポーツ選手の「こころと身体」の相互作用を測定・分析します。



社会調査室

スポーツ・レジャー・レクリエーション参加やスポーツ観戦などのデータ分析、プレゼンテーション資料の作成など、社会現象を調査・分析します。



大学院自習室

<その他の研究施設>

- スポーツ生理学実験室
- 試料分析室
- スポーツ栄養学実験室

[図書館・医療施設・附置施設等]



国内外約 192,000 冊の専門書、学術雑誌、電子媒体資料が充実。

和洋の体育科学・スポーツ医学科学・教育学等の専門資料を中心に教養書、スポーツ関連欧文貴重書等約 192,000 冊、専門研究に役立つ和洋雑誌約 3,360 種を所蔵。各種データベースおよび電子ジャーナルや電子ブック等も図書館ホームページから利用できます。 <http://lib.ouhs.ac.jp/>



ストレングス&コンディショニング(S&C) ルーム

スポーツ科学・医学等の最先端の研究、充実した施設、器具、機材を活用し「教育」「研究」「実践(現場)」と連携して各クラブの競技力向上の支援を行っています。



情報処理センター

パソコンを快適に利用できる環境が整備されています。今や欠かすことのできない情報処理教育・IT サービスに対応しています。



教職支援センター

模擬授業教室や集団面接室・個人面接室を備えており、教員採用試験の現役合格者を増大させることを目標としたサポート活動を行っています。



学生相談室・スポーツカウンセリングルーム

臨床心理士やスポーツメンタルトレーニング指導士の資格を持つスタッフが、さまざまな相談に応じます。より充実した学生生活、競技生活をサポートします。

社会人学生からのコメント

博士前期課程2年 出水精次 (バイオメカニクス分野)

私は、理学療法士として整形外科病院に勤務しておりますが、リハビリを行う中でバイオメカニクスに興味を持ち、大学院に進学しました。現在、三児の父親でもあり、育児や仕事をしながら学ぶことに不安がありましたが、長期履修制度を利用することにより4年間在籍することができるので、週1回の通学で自分のペースで進めることがで

きています。

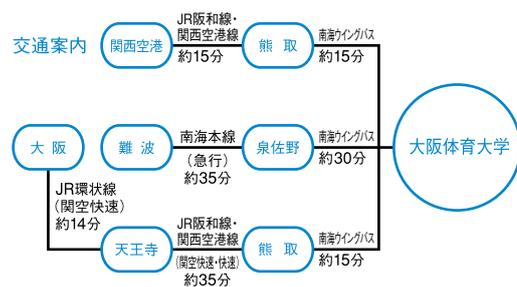
また、2022年度より、昼夜開講制が導入されたため、夜間開講は自宅や職場で遠隔授業を受けており、仕事との両立が無理なくできています。指導教員や大学院事務室の方々丁寧サポートして下さり、今は不安なく大学院生活を送れています。

博士前期課程1年 柳澤秀仁 (スポーツマネジメント分野)

私は、地域スポーツの推進と支援を行う公益法人に勤めていますが、スポーツマネジメントのスキルを上げ、キャリアアップを実現させるため、大学院に進学しました。私は本学の卒業生なので、母校の大学院への進学を考えましたが、仕事を続けながら学業と両立できるのが一番の不安材料でした。2022年度から昼夜開講制がスタートし、夜間開講の授業がオンラインで受講できること、長期履修制度が選択できるので4年間かけて学べること、さらにスポーツ科学実践プログ

ラムにより、現場で抱える課題を解決するための実践を課題研究として論文にまとめれば修士が取得できることなど、社会人に寄り添った制度が充実していることから、進学を決めました。いまでは入学して本当によかったと感じています。先生方の社会人学生への配慮もあって、社会人の方に安心して両立できる環境が整っている大学院だと思います。

ACCESS MAP



大阪体育大学大学院

〒590-0496 大阪府泉南郡熊取町朝代台1-1
 TEL.(072)453-7031(直通) FAX.(072)453-7028
<http://www.ouhs.jp/>

学校法人 浪商学園



昼 夜 Q&A 開講制について



Q1 夜間開講の遠隔授業(オンライン)だけで修了できますか。

A1 夜間開講科目は最短修業年限の2年間で全ての科目が履修できる機会を与えるために隔年で実施されます。したがって、2年間で修了に必要な単位が取得できるようになっています。しかし、大学院を修了するためには、修士論文または特定の課題についての研究成果の提出が必須ですので、授業計画と研究計画をしっかりと立てておく必要があります。また、修士論文等発表会など何度か通学する必要もあり、遠隔だけでは修了はできません。

Q2 夜間開講の遠隔授業(オンライン)を希望しますが、全く大学院に来なくてもいいのですか。

A2 一部ですが、授業内で実験や測定などを必須としている科目もあります。その場合、遠隔授業(オンライン)15回のうち3回程度は対面授業で行うことを可としているため、熊取キャンパスへ来ていただく必要があります。また、修士論文発表会についても対面で開催されます。遠方から来られる場合は、熊取キャンパス内の宿泊施設が無料で利用できるようになっています。

Q3 夜間開講の遠隔授業(オンライン)は社会人でないと履修できないのですか。

A3 社会人以外の方でも履修できます。社会人学生、一般学生という概念をなくし、自由に履修できるシステムになっています。したがって、昼間開講および夜間開講を自分のライフスタイルにあわせて設計することができ、履修の幅が広がります。



Q4 夜間開講の遠隔授業(オンライン)のみを履修しようと思っていますが、授業料等はどうなるのですか。

A4 昼間開講の対面授業を主とする学生も、夜間開講の遠隔授業(オンライン)を主とする学生も、授業料等は同額です。

入 学 金 ▶	200,000円	※本学卒業生は 入学免除
授 業 料 ▶	700,000円	
実 験 実 習 費 ▶	60,000円	
教育後援会費 ▶	12,000円	

Q5 入学試験はどのような内容ですか。

A5 入試については、今までどおりの方法で実施し、変更はございません。「一般選抜」は語学・論述・口述試験、「スポーツ選抜」「社会人選抜」「外国人選抜」は論述・口述試験をそれぞれ受けていただきます。

※「スポーツ選抜」「社会人選抜」「外国人選抜」には出願資格審査があります。

長期履修制度

社会人は、出願時に申請することで、最長4年まで在学期間を延長することができます。夜間開講の遠隔授業(オンライン)を希望する社会人は、この制度を利用することで、余裕を持って授業や修士論文等の作成に取り組むことができます。
*学費は2年分の合計金額を4年に分割して納入していただきます。

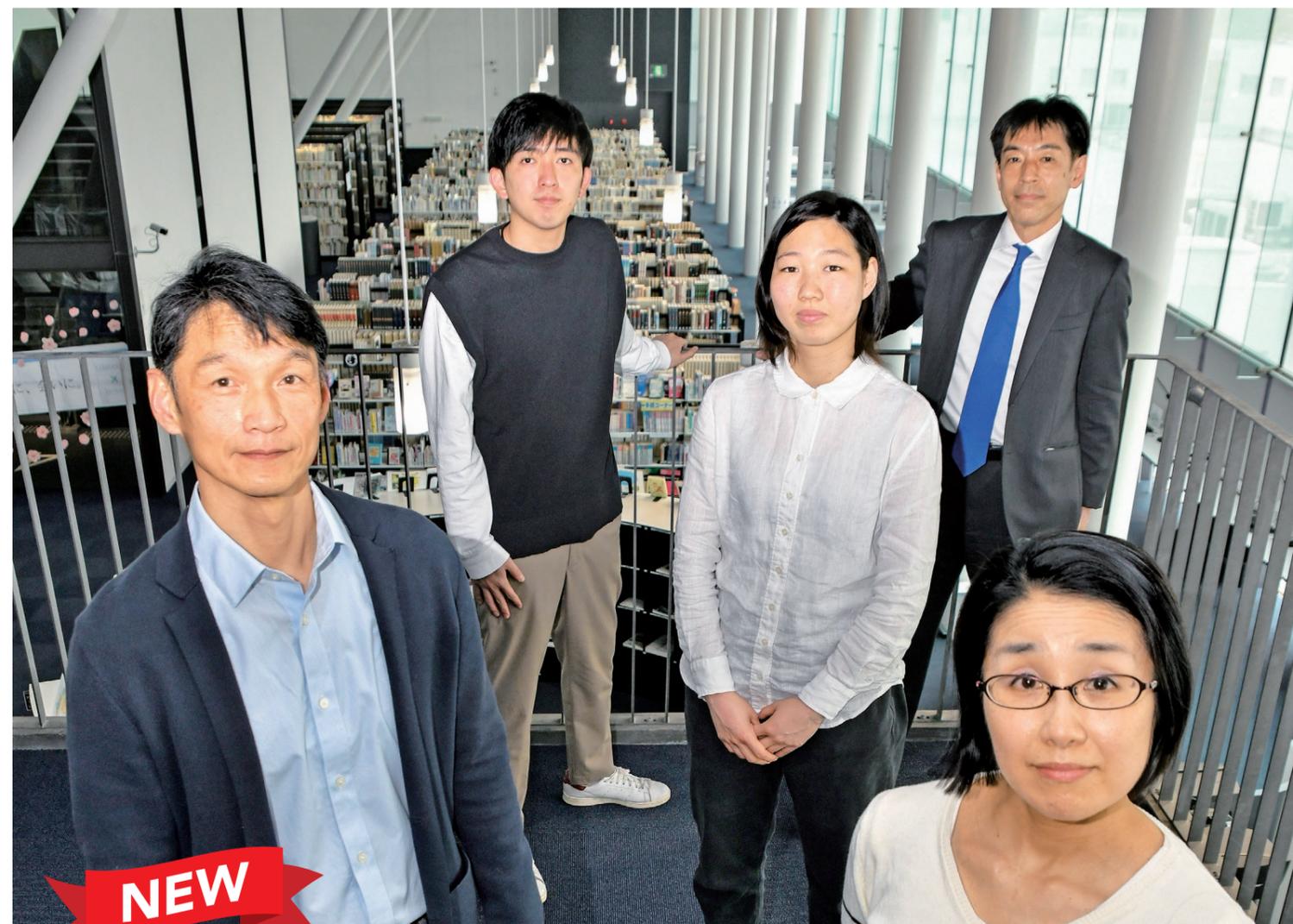
大学院事務室:事務取扱時間

- ▶ 通常
 - ◎ 月曜日～金曜日 8時30分～17時00分
 - ◎ 土曜日 8時30分～13時00分
- ▶ 授業開始時
 - 【前期】授業開始 1ヶ月間のみ
 - 【後期】授業開始 1週間のみ
 - ◎ 月曜日～金曜日 8時30分～授業終了まで

大阪体育大学大学院

〒590-0496 大阪府泉南郡熊取町朝代台1-1
TEL:072-453-7031(直通) FAX:072-453-7028
email:grads-s@ouhs.ac.jp ホームページ:https://www.ouhs.jp/

学校法人 浪商学園



NEW

昼 夜 開講制のメリット

- 平日に勤務している社会人は夜間開講の遠隔授業(オンライン)のみで単位を取得することができます。
- 遠隔授業(オンライン)と修士論文の執筆により、最短2年間で学位を取得することが可能です。但し、修士論文等発表会は対面で行うなど、全てが遠隔(オンライン)で可能ということではありません。
- 全国どこからでも履修が可能なので、関西圏以外に居住されている方は転居などの負担がなく、また環境を変えることなく大学院生活を過ごすことができます。
- 自分のライフスタイルにあわせて昼間開講科目や夜間開講科目または両開講科目を選択でき、自由に履修することができます。
- 一般学生と社会人学生と一緒に研究・勉強することにより、お互いに刺激し合って向上を図ることができます。

「昼夜開講制」の導入目的

本学大学院では、2021年度から高度専門職業人養成のための「スポーツ科学実践プログラム」がスタートしました。このプログラムは、社会人のリカレント教育という位置づけです。そこで、さらにリカレント教育を推進するために、2022年度から昼夜開講制を導入することとしました。本学で学びたい、研究したい、キャリアアップさせたいと考えている全国の入学希望の皆さんに対して、安心して学んでいただけるシステムとなっています。入学後は、昼間開講科目は対面授業、夜間開講科目は遠隔授業（オンライン）で行います。社会人や関西圏以外に居住されている方は、職場や自宅で遠隔授業（オンライン）を受講することができますので、通学や仕事との両立など、受講環境の問題で大学院進学をあきらめていた方々に寄り添ったシステムです。

昼夜開講制を導入することで、全国の入学希望者に門戸を広げることになり、さらにはスポーツ科学領域で社会貢献ができるのではないかと考えています。

開講形式

基本的には昼間開講科目は対面、夜間開講科目は遠隔授業（オンライン〈Zoomなど同時双方向形式〉）で行います。

教員インタビュー



多様なバックグラウンドを持った学生が、
勉学・研究に打ち込める環境が揃っています

大学院スポーツ科学研究科
三島 隆章 教授

2022年度から本大学院で昼夜開講制が始まりました。これによって、社会に出てからも本学の大学院で学びたい・研究したいという方々に、仕事や遠隔を理由に諦めることなく、学びや研究に取り組み、自身のテーマを存分に探究していただけるようになりました。

このように、学びの門戸を広げることは、リカレント教育の充実と受け入れを進める本大学院が果たさなければならない役割です。また、学部卒業後に進学する学生と社会人の方々、いろいろなバックグラウンドを持った学生が一堂に学ぶことで、本大学院の魅力や利点がより強まることも期待されます。

入学時に2年分の時間割を提示しますので、遠隔授業（オンライン）であっても、計画的に履修すれば2年間で必要な単位が取得できます。先が見える状態で入学することになりますので、安心して学びや研究に専念できるでしょう。

遠隔授業（オンライン）であっても研究・実験、論文指導などで来学する必要が生じた際は、本学の大学院生であれば、セミナーハウスに無料で宿泊することができますし、各施設や機器なども積極的に活用することができます。皆さんが大いに勉学・研究に打ち込める環境を整えてお迎えいたします。

時間割

在学学生はすべての講義科目を受講することができますが、遠隔授業（オンライン）を希望する場合は、平日6～7時限、土曜日開講の科目を履修してください。また、2年間ですべての科目を履修できるように夜間開講科目は隔年で設定しています。

2022年度		1時限 9:00～10:30	2時限 10:40～12:10	3時限 13:00～14:30	4時限 14:40～16:10	5時限 16:20～17:50	6時限 18:00～19:30	7時限 19:40～21:10
曜日	期間等	科目名	科目名	科目名	科目名	科目名	科目名	科目名
月	前期	(スポーツゲーム分析論特論)	運動学特論	(スポーツカウンセリング論特論)	(スポーツ生理学特論)	(トレーニング科学特論)	スポーツ生理学特論	スポーツゲーム分析論特論
	後期		リハビリテーション特論	(臨床スポーツ医学特論)	スポーツ科学セミナー		スポーツ地域創生論特論	トレーニング科学特論
火	前期	(授業観察評価法特論)	(Academic English for Sport Sciences (Basic))	(スポーツコーチング論特論)		(スポーツ心理学実践論特論(1))	スポーツ心理学実践論特論(1)	スポーツコーチング論特論
	後期	体育・スポーツ哲学特論	臨床スポーツ心理学特論	(臨床バイオメカニクス特論)	(冒険教育特論)	(スポーツ心理学実践論特論(2))	スポーツ心理学実践論特論(2)	授業観察評価法特論
水	前期		(競泳科学特論)	(スポーツマネジメント論特論)	スポーツ科学統計(1)		スポーツマネジメント論特論	競泳科学特論
	後期		(球技パフォーマンス分析論特論)	(発育発達論特論)	身体表現学特論		発育発達論特論	アダプテッド・スポーツ科学特論
木	前期	(スポーツ心理学特論)	感情スポーツ心理学特論	(スポーツ地域創生論特論)	スポーツボンサーシップ論特論		スポーツ心理学特論	
	後期	(アダプテッド・スポーツ科学特論)	健康管理論特論				保健体育科教育学特論	
金	前期		神経・筋メカニクス特論	(保健体育科教育学特論)				
	後期	スポーツ社会学特論	武道学習論特論	(スポーツ史特論)		スポーツ史特論		
土	前期		運動生化学特論	スポーツバイオメカニクス特論				球技パフォーマンス分析論特論
	後期							

■ = 昼間開講：対面授業 □ = 夜間開講遠隔授業（オンライン） () = 夜間開講が主となるため夜間開講に履修者がひとり以上いれば、昼間は開講しません。

履修について

履修方法

履修登録は、入学後Webで行っていただけます。授業開始までに、昼間開講または夜間開講を履修者の状況を確認しながら決定する必要があることから、登録期間は4～5日間となり、大変短くなっています。また、社会人に限らずどの学生も、昼間および夜間開講科目を受講することができます。



履修モデル

スポーツマネジメント分野 遠隔授業（オンライン）を中心に受講

1年目前期

スポーツマネジメント論特論	水曜日 6時限
インターンシップ(1)	—
特論演習(1)	指導教員と相談

1年目後期

スポーツ地域創生論特論	月曜日 6時限
冒険教育特論	火曜日 7時限
スポーツマネジメント実践論特論(1)	集中授業
スポーツ史特論	金曜日 6時限
特論演習(2)	指導教員と相談

2年目前期

スポーツビジネス特論	月曜日 7時限
スポーツマーケティング論特論	火曜日 6時限
スポーツボンサーシップ論特論	火曜日 7時限
スポーツ科学統計(1)	水曜日 7時限
スポーツマネジメント実践論特論(1)	集中授業
特論演習(3)	指導教員と相談

2年目後期

スポーツ科学セミナー	月曜日 6時限
スポーツ社会学特論	金曜日 6時限
特論演習(4)	指導教員と相談

スポーツ心理学分野 遠隔授業（オンライン）を中心に受講

1年目前期

スポーツカウンセリング論特論	月曜日 6時限
スポーツ心理学実践論特論(1)	火曜日 6時限
スポーツコーチング論特論	火曜日 7時限
発育発達特論	水曜日 6時限
特論演習(1)	指導教員と相談

1年目後期

スポーツ心理学実践論特論(2)	火曜日 6時限
スポーツ心理学特論	水曜日 6時限
スポーツ史特論	金曜日 6時限
特論演習(2)	指導教員と相談

2年目前期

運動学特論	月曜日 6時限
スポーツリーダーシップ論特論	水曜日 6時限
スポーツ科学統計(1)	水曜日 7時限
特論演習(3)	指導教員と相談

2年目後期

スポーツ科学セミナー	月曜日 6時限
感情スポーツ心理学特論	水曜日 6時限
臨床スポーツ心理学特論	木曜日 7時限
特論演習(4)	指導教員と相談

ココ注意！

- 夜間開講科目は、昼間の時間割にも配置しています。夜間に履修がひとり以上あれば、夜間で開講することになり、昼間では開講しません。夜間に履修者がおらず、昼間に履修者がいれば、昼間で開講します。
- 昼間と夜間で同じ科目を2回開講することはありません。

2023年度		1時限 9:00～10:30	2時限 10:40～12:10	3時限 13:00～14:30	4時限 14:40～16:10	5時限 16:20～17:50	6時限 18:00～19:30	7時限 19:40～21:10
曜日	期間等	科目名	科目名	科目名	科目名	科目名	科目名	科目名
月	前期		(運動学特論)	スポーツカウンセリング論特論	スポーツ生理学特論	トレーニング科学特論	運動学特論	スポーツビジネス特論
	後期		(スポーツビジネス特論)					
火	前期		(リハビリテーション特論)		(スポーツ科学セミナー)		スポーツ科学セミナー	体育授業づくり特論
	後期		(体育授業づくり特論)					リハビリテーション特論
水	前期	授業観察評価法特論	(Academic English for Sport Sciences (Basic))	スポーツコーチング論特論		スポーツ心理学実践論特論(1)	健康管理論特論	スポーツボンサーシップ論特論
	後期	(体育・スポーツ哲学特論)	臨床スポーツ心理学特論	(臨床バイオメカニクス特論)	冒険教育特論	スポーツ心理学実践論特論(2)	スポーツマーケティング論特論	運動生化学特論
木	前期		競泳科学特論	スポーツマネジメント論特論	(スポーツ科学統計(1))		身体表現学特論	スポーツ科学統計(1)
	後期		球技パフォーマンス分析論特論	発育発達論特論	(身体表現学特論)		スポーツリーダーシップ論特論	体育・スポーツ哲学特論
金	前期				(スポーツリーダーシップ論特論)			
	後期	スポーツ心理学特論	(感情スポーツ心理学特論)	スポーツ地域創生論特論	(スポーツボンサーシップ論特論)		感情スポーツ心理学特論	
土	前期	アダプテッド・スポーツ科学特論	(健康管理論特論)				Academic English for Sport Sciences (Basic)	
	後期	(神経・筋メカニクス特論)	保健体育科教育学特論				神経・筋メカニクス特論	臨床スポーツ心理学特論
日	前期							
	後期	(スポーツ社会学特論)	(武道学習論特論)	スポーツ史特論			スポーツ社会学特論	スポーツバイオメカニクス特論

[研究領域・学問分野表]

本大学院では学生が受験・師事する際に、学問分野と研究領域をもとに、より具体的に選択できるようにしています。

■博士後期課程:博士論文指導担当 ■博士前期課程:修士論文指導担当 ※博士後期課程担当者は全員博士前期課程・修士論文指導も担当します。

		研究領域					
		スポーツ文化	競技スポーツ	健康スポーツ	学校体育	レジャー・レクリエーション	
文化・社会科学領域	学問分野	保健・体育科教育学	—	小林	小林	小林・浜上	—
		スポーツ史・哲学	中房・森田	曾根・中房・森田	—	中房・森田	—
		スポーツ社会学	中山	中山	中山	—	中山
		スポーツマネジメント	富山・原田	富山 徳山・藤本	富山・原田 徳山・藤本	—	富山・原田 伊原・徳山・藤本
		スポーツ心理学	土屋 小菅・手塚・平川	土屋 小菅・菅生・手塚・平川	土屋 菅生・手塚・平川	土屋 手塚・平川	土屋 手塚・平川
		アダプテッド・スポーツ	植木・竹内	植木・竹内	植木・竹内	植木・竹内	植木・竹内
		バイオメカニクス	—	石川・下河内 尾関・貴嶋・藤原	下河内 貴嶋	石川 貴嶋・高本	—
		教授学(指導方法学)	神崎・白井	浅井・尾関・神崎・曾根 高本・藤原・宮地	神崎・貴嶋・白井	神崎・貴嶋・白井・高本	伊原
		スポーツ生理学	—	浜田 足立・三島	浜田 足立・三島	—	—
		スポーツ医学	—	前島	前島	前島	—
健康・医学領域	学問分野	スポーツ栄養学	—	岡村	岡村	岡村	岡村

◆ 大学院の履修課程 ◆

スポーツ科学研究科

スポーツ科学専攻

博士前期課程(2年・修士) 科学的スポーツ実践者の育成 ○スポーツ科学理論と応用的方法論の修得

[共通科目]

- | | | | |
|-------------------------|------------------------|------------------------|--|
| ● スポーツ科学統計(1)(2) | ● 武道学習論 特論・特論演習 | ● 感情スポーツ心理学 特論・特論演習 | ● Academic English for Sport Sciences(Basic) |
| ● スポーツマネジメント論 特論・特論演習 | ● 保健体育科教育学 特論・特論演習 | ● スポーツリーダーシップ論 特論・特論演習 | ● スポーツ科学特論A |
| ● スポーツマネジメント実践論 特論Ⅱ | ● 体育授業づくり 特論・特論演習 | ● スポーツ心理学実践論 特論(1)(2) | ● スポーツ科学特論B |
| ● 地域スポーツ経営論 特論 | ● スポーツバイオメカニクス 特論・特論演習 | ● 身体表現学 特論・特論演習 | ● スポーツ科学セミナー |
| ● スポーツマーケティング論 特論・特論演習 | ● 神経・筋メカニクス 特論・特論演習 | ● 発育発達論 特論・特論演習 | ● スポーツ科学研究 |
| ● スポーツスポンサーシップ論 特論 | ● 臨床バイオメカニクス 特論・特論演習 | ● 健康管理論 特論・特論演習 | |
| ● 冒険教育 特論・特論演習 | ● スポーツコーチング論 特論・特論演習 | ● スポーツ生理学 特論・特論演習 | |
| ● スポーツビジネス 特論・特論演習 | ● トレーニング科学 特論・特論演習 | ● スポーツ栄養学 特論・特論演習 | |
| ● スポーツ地域創生論 特論・特論演習 | ● 競泳科学 特論・特論演習 | ● 運動生化学 特論・特論演習 | |
| ● スポーツ社会学 特論・特論演習 | ● 運動学 特論・特論演習 | ● 体育・保健授業づくり実践実習ⅠⅡ | [総合科目] |
| ● スポーツ史 特論・特論演習 | ● 球技パフォーマンス分析論 特論・特論演習 | ● 体育・保健授業づくり実践指導実習 | ● インターンシップ(1)(2) |
| ● 体育・スポーツ哲学 特論・特論演習 | ● スポーツカウンセリング論 特論・特論演習 | ● 体育授業目標・内容論 特論 | ● 実験実習(実験・調査・測定)(1)(2) |
| ● アダプテッド・スポーツ科学 特論・特論演習 | ● スポーツ心理学 特論・特論演習 | ● 授業観察評価法 特論 | |
| ● リハビリテーション 特論・特論演習 | ● 臨床スポーツ心理学 特論・特論演習 | ● 保健体育教材設計 特論 | |

※各特論演習:(1)(2)(3)(4)

博士後期課程(3年・博士) 創造的・科学的専門家の育成 ○スポーツ科学の理論構築と創造的方法論の開発

[共通科目]

- | | | | |
|------------------------|-----------------------|-------------------|---------------------------------------|
| ● 神経・筋メカニクス 特講・特講演習 | ● 臨床内科スポーツ医学 特講・特講演習 | ● スポーツマーケティング論 特講 | ● スポーツ生理学 特講 |
| ● 臨床バイオメカニクス 特講・特講演習 | ● 運動生化学 特講・特講演習 | ● スポーツリーダーシップ論 特講 | ● Academic English for Sport Sciences |
| ● スポーツカウンセリング論 特講・特講演習 | ● スポーツマネジメント論 特講・特講演習 | ● スポーツビジネス 特講 | ※各特講演習:(1)(2)(3)(4)(5)(6) |
| ● スポーツ栄養学 特講・特講演習 | ● スポーツ科学研究論 特講 | ● スポーツ心理学 特講 | |

博士前期課程・修士論文指導担当

◆ 後 教員は、博士後期課程・講義も担当します。◆ 教員紹介は五十音順。◆ 学位の表記方法は平成3年の学位規則改正前と改正後で異なります。

足立 哲司 ADACHI Tetsuji 教授

学位：修士(体育学) 大阪体育大学
学問分野：スポーツ生理学
研究領域：競技スポーツ、健康スポーツ

● 研究指導内容 **キーワード**
乳酸、脂肪酸化、マラソン、体カトレーニング

①エリート中長距離・マラソンランナーの生理学的プロフィール(V \dot{O}_2 max、vV \dot{O}_2 max、LT、OBLA、Running Economy、%Fat など)と競技パフォーマンスとの関連を調べ、効果的

なトレーニング法、記録の限界などについて討論する。また市民ランナーの競技レベルを正確に把握する指標について、乳酸尺度に加えて、フィールドテストなどから記録を予測する方法を議論する。②生活習慣病の予防・改善のために運動が果たす役割は大きい。そこで運動による糖質、脂質の利用割合を間接熱量法を用いて明らかにし、効果的な脂肪燃焼法について検討する。その方法として、脂肪酸化量の変化を運動条件(種類・強度・時間)、環境条件(気温・湿度・酸素濃度)、サプリメントの種類、各種トレーニング方法などから探求する。

伊原 久美子 IHARA Kumiko 教授

学位：修士(体育科学) 筑波大学
学問分野：スポーツマネジメント、
教授学(指導方法学)
研究領域：レジャー・レクリエーション

● 研究指導内容 **キーワード**
野外教育、冒険教育

自然の特性を活用した野外教育は、本質的に多くの冒険的要素が含まれている。冒険教育とは、その要素を特に活用したものであり、特定の教育目標をもち、体験学習として組織的に行われる活動を指す。冒険教育は自分は大

き成長させるために意図的に困難に立ち向かうことであり、それは現代の文明社会では育成しにくくなったものを育てる機会を提供する。高所を活用した、登山、ロッククライミング、ハンガラライダー、水中を活用したスカーバダイビング、カヤック、ヨット航海、ウインドサーフィン、雪上や氷上を活用したスキー、スケート、雪山登山などは、自然環境や自然現象が生み出すリスクと向き合う機会を与え、心理的、社会的、教育的、身体的な効果が得られると考えられている。近年では、これらの活動は、新入社員研修やスポーツチームのチームビルディングなどの組織づくりにも活用されている。「冒険教育技術」では、冒険教育の歴史や効果、指導法、マネジメントを理解し、冒険教育の開発、実践を通してその効果を検討する。

植木 章三 UEKI Shouzoh 教授

学位：博士(医学) 愛媛大学
学問分野：アダプテッド・スポーツ
研究領域：スポーツ文化、競技スポーツ、健康スポーツ、
学校体育、レジャー・レクリエーション

● 研究指導内容 **キーワード**
アダプテッド・スポーツ、障がい者、高齢者、介護予防、自主活動支援

アダプテッド・スポーツは、従来から知られている障がい者スポーツに留まらず、高齢者のスポーツや介護予防のための運動、特別支援学校等における体育活動など、運動やスポーツを実施する際に何らかの配

慮が必要な人々に対応するべく、用具やルール等を工夫したスポーツの総称である。バラスポーツのように競技性の高いものから、高齢者が行う体操やレクリエーションなど、対象者の特性や目的によって行われる、様々なスポーツや運動が該当する。実施する対象者の特性を理解した上で、体を動かす楽しさや効果が最大限得られるように、新たな用具やルールを創造することにより、今後も新しいアダプテッド・スポーツの提案が求められている。そのためには、アダプテッド・スポーツの普及の支援方法や効果を評価する方法の開発などに関する研究を通じて、多くの人にアダプテッド・スポーツを提供し、その恩恵を享受してもらうための方策を、多方面から検討する必要がある。具体的な研究方法としては、質問紙による調査や実験室、フィールドでの測定で得られたデータによる量的研究に加え、半構造化面接やグループインタビューで得られたデータによる質的研究を用いた混合研究方法を活用していく。

尾関 一将 OZEKI Kazumasa 准教授

学位：修士(体育学) 中京大学
学問分野：バイオメカニクス、教授学(指導方法学)
研究領域：競技スポーツ

● 研究指導内容 **キーワード**
競泳競技、スポーツバイオメカニクス、コーチング

スポーツ指導は様々な科学的知見に基づいて行う必要がある。その中でもスポーツにおける運動は力学的法則が関与しているため、技術指導やトレーニング指導を効果的に行うためには運動や力の働

きを理解することが重要である。経験豊かなコーチの観察眼はスポーツにおける運動を即時的・直感的に問題点を見抜くことができるが、そのような観察眼はすぐに体得できるものではなく、客観的な評価も難しい。スポーツバイオメカニクスではVTRや各種のバイオメカニクスの計測手法を用いてスポーツの運動を決定する様々な要因を定量化し、客観的に評価することが出来る。このようなバイオメカニクスの計測手法は手間はかかるものの、スポーツにおける運動を客観的に評価する大きな手助けとなる。本研究室ではコーチもしくはコーチを助ける科学者として得るべきバイオメカニクスの知見や計測方法を学び、実践する力を得ることを目標とする。

神崎 浩 KANZAKI Hiroshi 教授

学位：体育学修士 筑波大学
学問分野：教授学(指導方法学)
研究領域：スポーツ文化、競技スポーツ、
健康スポーツ、学校体育

● 研究指導内容 **キーワード**
武道教育論、技術論、上達論、剣道

武道は日本の伝統的な運動文化であり、時代とともに醸成され、また分化して今日に至っている。その伝統性の継承はいつの時代においても指導者、実践者に課

せられた使命であり、このことを科学的な視点で客観化させなければならない時代になってきた。そのためには武道思想の幅広い理解と各種武道に共通した身体論の理解と究明が求められる。特に現代における武道実践者の上達論はもとより、学校における武道教育のあり方を幅広い視点で論じていく必要がある。また武道の持つ多面的特性が今日の社会においてどのような立場に立ち、どの方向に行こうとしているのかを探り、そのことへの論評を展開したい。

貴嶋 孝太 KIJIMA Kota 准教授

学位：修士(スポーツ科学) 大阪体育大学
学問分野：バイオメカニクス
研究領域：競技スポーツ、学校体育、健康スポーツ

● 研究指導内容 **キーワード**
スポーツ技術、動作解析、トレーニング、コーチング

種々のスポーツ分野やスポーツ場面、教育現場における指導には対象者や指導者が持つ経験や勘に加えて、科学的知見により得られた客観的な情報が役に立つことがある。科学的・客観的な事実の理解は指導者の説明力を助け、選手の自主性・積極性を促すことにつながる。それら、科学的な知見

を基にした指導法や教育内容を創造するために、科学的手法を用いて、ヒトの身体運動やスポーツの技術、体力などを理解することに努める。ここでは、主にバイオメカニクス(力学や解剖学、生理学などの既存の学問を応用しながらヒトや動物の運動のしくみを調べる学問)の観点から、競技スポーツに焦点を当て、合理的なスポーツ技術の理解と説明、スポーツ用具の開発や改善、ヒトの発達や加齢に伴う運動技術の変化、合理的なトレーニング法の提案や検証など、競技スポーツのパフォーマンス向上に関する課題について取り組む。具体的には、歩・走・跳・投・打・滑などヒトの基本的な運動の技術構造やその意味などについて調査・検討する。その後、種々のスポーツ種目についてバイオメカニク的に理解を深め、根拠(客観性)を持つ練習法やトレーニング内容を提案することを旨とする。

後 小菅 萌 KOSUGA Moe 准教授

学位：博士(Kinesiology) Michigan State University
学問分野：スポーツ心理学
研究領域：スポーツ文化、競技スポーツ

● 研究指導内容 **キーワード**
リーダーシップ、コーチング、チーム、自己効力感、メンタルトレーニング

スポーツチームが目標を達成するには、効果的でありリーダーシップが必須である。本研究室では、スポーツチームにおけるリーダーシップ(主に監督・コーチ、選手のリーダー)を軸に

研究活動をしている。リーダーシップとは、特定の個人が集団に影響を与えるプロセスを指す。「良いリーダーとは?」「良いリーダーになるには?」といった課題について量的・質的に探求し、スポーツ現場に活かせる研究成果をあげることが目標としている。またリーダーシップに大きく関わる要因でもある、選手個人、選手間のリーダー、監督・コーチ、そしてチームの効力感(自信)についても研究を続けている。また、個人やチームへのメンタルトレーニングについても検討を行い、自身でも理論や研究結果を実践で活かすことを目標にする。(研究室ブログ <http://moemachida.com>)

小林 博隆 KOBAYASHI Hirotaka 准教授

学位：修士(教育学) 北海道教育大学
学問分野：保健・体育科教育学
研究領域：学校体育

● 研究指導内容 **キーワード**
体育科教育、授業づくり、体力・運動能力、身体活動量

保健体育教師になるためには、体育(保健)の科学的知識を学び、それらの知識を実践の場面で効果的に発揮できる能力を身につける必要がある。「保健体育科教育学特論」では、

体育授業を中心とする体育実践の改善を目的として行われる研究分野である体育科教育学を軸に学ぶことになる。特に近隣の小学校・中学校などと連携したフィールドワークを通して、「よい体育授業」とはどのような授業であるのか、「よい体育授業」を実現するための諸条件(授業づくり、教材、教具づくり、教師行動など)の理解を深めていく。なかでも、子どもの運動習慣の確立や体力・運動能力向上に向けた体づくり運動の授業づくりを中心に展開している。大阪、研究室の取り組みは、YouTube「大阪体育大学小林研究室」にて確認できる。

白井 麻子 SHIRAI Asako 准教授

学位：修士(人文科学) お茶の水女子大学
学問分野：教授学(指導方法学)
研究領域：スポーツ文化、健康スポーツ、学校体育

● 研究指導内容 **キーワード**
舞踊教育学、身体表現学、コミュニティダンス

スポーツやダンスにおける身体表現

①スポーツやダンスにおける身体表現。スポーツ観戦やダンス鑑賞において、観客は「身体」を見る。素晴らしい結果やストーリーを味わう以上に、そこに存在する「身体」に魅力がある。

身体にはよい試合結果を生み出す「道具としての身体」と、鍛え抜かれ、様々な経験を経て、ステージに立つ「表現としての身体」がある。これらの身体表現を認識し、パフォーマンスや指導力、教育力の向上の課題に取り組む。

②コミュニケーションする身体、多様化する身体。身体や動きのイメージを分析し、解釈することで、より明確な表現内容を把握することができる。多様化する身体イメージ、映像の中にみえる身体、ライブ、リアルな身体、自己と他者の身体の違い等を認識し、コミュニケーションする身体を心理学的、舞踊学的、教育的な視点で解釈する力を養う。

菅生 貴之 SUGO Takayuki 教授

学位：修士(教育学) 日本大学
学問分野：スポーツ心理学
研究領域：競技スポーツ、健康スポーツ

● 研究指導内容 **キーワード**
スポーツカウンセリング、自律訓練法、精神神経内分泌免疫学(PNEI)、心拍変動解析

スポーツ競技において実力を発揮するためには、技術的、体力的側面とともに、心理的側面が重要である。スポーツ心理学では、競技者がピークパフォーマンスを発揮するための心理的な条件や準備、試

合場面での対処などを主要な研究対象としている。「臨床スポーツ心理学特論」においては、そうした競技者の心理的側面に対して、どのような支援をすることができるかを検討していくことをテーマとしている。スポーツ選手への心理的支援の主要概念であるスポーツメンタルトレーニングとスポーツカウンセリングについて理解を深め、実践家としてどのような支援を行うかについて検討していく。また、そうした心理的支援の方法論に関しては、いまだ科学的に効果が実証されたものは少ない。そこで、研究対象としてはそれぞれの心理的技法の効果を判定するために、質問紙や生理・生化学的指標(PNEI)などを用いて正確なアセスメントが可能となるように検討していく。

曾根 純也 SONE Junya 教授

学位：修士(体育学) 筑波大学
学問分野：スポーツ史・哲学、
教授学(指導方法学)
研究領域：競技スポーツ

● 研究指導内容 **キーワード**
発生的運動学、現象学、身体知

運動を実行する際に、何が「わかる」と「できる」ようになるのかを論じることに由来して「身体知」の存在を示す試みをしていく。また、スポーツ現場における自

己と他者の間に生起する生々しい思いや意図を適切につかむことで、主観的と捉えられるスポーツ現場の体験でも、価値ある体験の存在を探索し、それらを可能な限りあるがままに捉えて提示することによって生の実相が見えて来るような考察を進めていきたい。

高本 恵美 TAKAMOTO Megumi 教授

学位：博士(体育科学) 筑波大学
学問分野：バイオメカニクス、
教授学(指導方法学)
研究領域：競技スポーツ、学校体育

● 研究指導内容 **キーワード**
運動能力・動作、発育発達、トレーニング

①ヒトの運動・スポーツの基本となる走・跳・投運動を中心に、それらの能力・動作の発達過程について検討する。また、これらの能力・動作を高めるための効果

的な学習教材を開発し、実践を通してその効果を検討する。②競技スポーツ(特に陸上競技)のパフォーマンス向上に関する課題について検討し、効果的・合理的なトレーニング方法について検証する。①、②はともに、基礎的な理論を理解した上で、実践を通して効果の検証を行うことを目標とする。

竹内 亮 TAKEUCHI Ryo 教授

学位：博士(学術) 広島大学
学問分野：アダプテッド・スポーツ
研究領域：スポーツ文化、競技スポーツ、健康スポーツ、
学校体育、レジャー・レクリエーション

●研究指導内容 **キーワード**
リハビリテーション、運動療法、
アダプテッド・スポーツ、体力測定評価

特別な配慮を要する対象者(幼児から高齢者まで多岐にわたる)への運動療法、さらには社会参加の促進、生活の質(QOL)の向上を含めた、包括的リハビリテーションに関する研究を行っている

後講 徳山 友 TOKUYAMA Tomo 准教授

学位：博士(Sport Administration) University of Louisville

学問分野：スポーツマネジメント
研究領域：競技スポーツ、健康スポーツ、
レジャー・レクリエーション

●研究指導内容 **キーワード**
スポーツビジネスマネジメント、スポーツ
消費者行動、マーケティング

スポーツを産業としてとらえる際に必要な視点として「スポーツを商品として考える」がある。つまり、商品

る。また、学習指導要領(保健体育)の「傷害の防止及び健康な生活と疾病の予防」の内容に基づいて、生活習慣病(メタボリックシンドローム等)や運動器の障がい・外傷等の「予防」を目的とした身体活動に関する研究も行う。さらには、地域で活動する障がい者スポーツ実施者に対する支援ニーズの高まりを受けて、パラ陸上選手(投擲)を対象としたトレーニング指導に関する研究にも着手した。研究方法として、身体機能(形態、体力等)や移動能力の測定、質問紙調査などを実施し、主に量的データをを用いて分析を行った結果を、学会発表で公表するとともに論文としてまとめる。リハビリテーション特論では、従来の治療的役割に加え、予防的役割、ターミナル的役割といった多様なリハビリテーションの位置づけを理解するとともに、身体・心理・社会面を含めた包括的リハビリテーションの基礎を習得することを旨とする。

であるスポーツを消費する「スポーツ消費者」の理解は不可欠となる。多様化する消費者のニーズや特性を把握したうえで(スポーツ消費者行動)潜在マーケットの分析をもとに顧客グループを細分化(セグメンテーション)、的確なターゲット顧客の選定(ターゲティング)がスポーツにおいてもビジネスの成功に大きく影響する。この一連のプロセスはマーケティング全体の基礎部分であり、後に続くマーケティングプラン立案の指標となることから重要なプロセスである。したがって、本研究室ではビジネスの視点でスポーツをとらえ、これらプロセス(スポーツ消費者行動・セグメンテーション・ターゲティング)を研究のテーマとし、理論と実践をもとに研究を進めていく。

中山 健 NAKAYAMA Takeshi 教授

学位：修士(体育学) 鹿屋体育大学

学問分野：スポーツ社会学
研究領域：スポーツ文化、競技スポーツ、健康
スポーツ、レジャー・レクリエーション

●研究指導内容 **キーワード**
中高年齢者、身体活動実施、人的支援、
行動変容、社会関係資本

中高年齢者における身体活動(スポーツ)実施者の増加にかかわる他者からの働きかけに関する研究を事例として、スポーツ行動モデルの理

論化について研究を行なう。この研究事例は、中高年齢者層における身体活動実施者の増加が我が国における国民医療費の抑制に資するという社会構造を安定的に維持する機能主義的な立場に繋がっている。そのため、中高年齢者層における多様な身体活動実践を捉えることができないという他理論からの批判を受けることになる。しかしながら、健康志向の身体活動実施者から競技志向でのスポーツ活動実施者へと変容を遂げる中高年齢者も報告されている。したがって、機能主義的な立場から社会構造のダイナミックな変容、すなわちスポーツ文化の変容に寄与してきているのかと考え、この視点から研究を進めたいと思う。

原田 宗彦 HARADA Munehiko 教授

学位：博士(Ph.D.) Pennsylvania State University

学問分野：スポーツマネジメント
研究領域：スポーツ文化、健康スポーツ、レジャー・
レクリエーション

●研究指導内容 **キーワード**
スポーツ地方創生、スポーツ地域マネジメント、
スポーツまちづくり

スポーツにおけるビジネス化と複合化は、スポーツ産業をドラステイックに進化させた。その後、政府はスポーツ産業の発展を日本再興戦略の柱のひとつに据えた。このような動きは、スポーツに大

きなパラダイムシフトをもたらした。新しいスポーツ地域マネジメントの考えを浸透させた。さらに第3期スポーツ基本計画(2022-2027)では、「スポーツ健康まちづくり」という、スポーツツーリズムを触媒とした新しい政策展開を起動させた。よって研究指導においては、スポーツビジネスの全体像の把握と科学的理解を進めるとともに、①マクロ的視点として「スポーツと地方創生」②中民意識による施設マネジメント③「スポーツ健康まちづくり」と政策立案に関わるテーマ、④ミクロ的視点として「チームリーグマネジメント」といったプロスポーツのマネジメントに関わるテーマ、⑤ミクロ的視点として「スポーツ消費者の行動的動向分析」⑥「スポーツマーケティング」といったテーマを対象にするとともに、様々な視角からスポーツビジネスとマネジメントに関するリサーチアクションを探索し、最適な研究方法を用いて解を導くというアプローチを用いる。

藤原 敏行 FUJIHARA Toshiyuki 教授

学位：博士(Physical Education & Recreation) University of Alberta

学問分野：バイオメカニクス、教授学(指導方法学)
研究領域：競技スポーツ

●研究指導内容 **キーワード**
スポーツバイオメカニクス、動作分析、運動
技術分析、コーチング、体操競技、器械運動

ヒトは自分の身体の動きを、各感覚器官が知覚した情報と経験をともに「動きの感じ」として捉えており、ときには錯覚や誤解が生まれたり、個人間の差があったり

する。それは他者の運動を観察する場合においても同様である。身体運動をバイオメカニクスの分析、評価することは、その運動の力学的構造や技術を客観的に捉える上で有効である。巧みなスポーツ選手は動作にもさらさら改善できる点があり、未熟な動作の中にも本質的に理に適った動きがあることも考えられる。つまり、優れた動作の優れている理由、あるいはその逆を知ることが重要であると言える。科学的思考や思考法に慣れ親しむことは、感覚的思考のみに頼ることなく、また一方で科学という言語に振り回されることがなく、より信頼性、妥当性の高い情報を見極める助けとなる。主観と客観の狭間でスポーツ動作に関わる実践的知の発見・創出・蓄積・活用・伝承について検討していく。

後講 三島 隆章 MISHIMA Takaaki 教授

学位：博士(学術) 広島大学

学問分野：スポーツ生理学
研究領域：競技スポーツ、健康スポーツ

●研究指導内容 **キーワード**
スポーツ、運動、骨格筋、筋疲労

最大努力で筋収縮を反復して行うと、発揮張力が漸減する現象を一般的に筋疲労と呼ぶ。スポーツや運動等を継続して行う場合においても、パフォーマンスは徐々に低下し、やがてスポーツや運動自体を

行うことが困難となるが、スポーツや運動を継続して行うとともに生じるパフォーマンスの低下の要因のひとつに筋疲労が関与していると考えられている。特にスポーツ競技を行う場合、筋疲労が競技成績に影響を及ぼす可能性が高いことから、筋疲労について理解することはたいへん有意義なことである。そこで研究テーマとして筋疲労について着目して、ヒトから実験動物までを対象に、特に筋疲労と骨格筋機能との関連性等について検証を進めていくこととする。

森田 啓 MORITA Hiraku 教授

学位：博士(体育科学) 筑波大学

学問分野：スポーツ史・哲学
研究領域：スポーツ文化、競技スポーツ、
学校体育

●研究指導内容 **キーワード**
スポーツ哲学、体育哲学、スポーツ教育学

体育・スポーツで生じるさまざまな問題を根本から理解し、現状を批判的に認識し、これからの体育・スポーツをどうすればよいか、どうすればよくなるかを考察します。日常生活が変われば体育・スポーツも変わります。新

自由主義による格差拡大は身体活動経験にも大きな格差をもたらしています。体育においては二極化を前提に取り組む必要があります。目標・内容・評価をどうすべきか。スポーツを用いた教育、特に道徳性の育成は可能か。運動部活動をどうすべきかなど。スポーツにおいても差別、暴力、不正行為、勝利の追求とフェアプレイ、ドーピング問題など多くの課題が山積しています。スポーツと日常世界は密接に関係しています。体育・スポーツを哲学的に考察することは、人種、障害、性、セクシャリティなどに関する平等・公平性などの概念について、新しい理解や視点を導くのに役立つ可能性があります。さらに私たち人間、そして世の中(社会)の理解に役立つ可能性があります。

手塚 洋介 TEZUKA Yosuke 教授

学位：博士(心理学) 同志社大学

学問分野：スポーツ心理学
研究領域：スポーツ文化、競技スポーツ、健康
スポーツ、学校体育、レジャー・レクリエーション

●研究指導内容 **キーワード**
感情、ストレス、実験心理学、
スポーツ精神生理学

感情(emotion)は、外へ(e)の運動(motion)という語源が示すよう、スポーツ(および運動や他の身体活動)の実施と密に関

連する心理的現象である。スポーツ心理学において感情は、実に多様な観点から研究されている。たとえば、競技スポーツにおける「緊張・あがり」とピークパフォーマンスとの関連性、健康スポーツの継続因としての「ポジティブ感情」の機能、スポーツ観戦における「感動」など枚挙にいとまがない。最近では、心理学の基礎的知見を参照し、スポーツ実施者の感情表出を探ろうといった研究も行われつつある。本研究室では、感情スポーツ心理学という枠組みのもと、種々の心理学的手法を駆使して感情の機能や役割を検討し、スポーツと感情にまつわる諸現象を体系化を目指している。

中房 敏朗 NAKAFUSA Toshiro 教授

学位：教育学修士 奈良教育大学

学問分野：スポーツ史・哲学
研究領域：スポーツ文化、競技スポーツ、学校体育

●研究指導内容 **キーワード**
イギリス・スポーツ史、スポーツ技術史、
スポーツ用具史、大阪のスポーツ史

人文学の常として、研究室単位で特定の研究テーマを設定することは少ない。関連資料の存否や資料へのアクセスの可否によって研究の進展が左右されるが、基本的には各人の

好奇心や興味関心に即したテーマ設定を尊重する。その上で、自ら発掘した文献資料を手掛かりとして、研究課題の解明を目指す。その際、いかなる分野であれ、他者の多様な観点から批判、反論、意見、助言等を自らの研究にフィードバックさせることが重要である。その意味では古代ギリシア以来の知的ダイアローグの伝統を継承したいと思う。私自身はイギリスのフットボール史研究を出発点としているが、1980年代の「社会史」の洗礼を受けた世代なので、スポーツそのものの歴史と同時に、スポーツを成立させる(あるいは成立させない)時々の社会の動きに強い関心がある。

浜上 洋平 HAMAGAMI Yohei 准教授

学位：修士(体育学) 筑波大学

学問分野：保健・体育科教育学
研究領域：学校体育

●研究指導内容 **キーワード**
体育教師教育(PETE)、体育授業づくり、
水泳の教材論

体育授業は子どもたちを生涯スポーツへいざなう架け橋となる。しかし、現状はすべての学校で「よい」体育授業が行われているとは言い難い。体育科教育学は体育学と一般教育

学との間で成立する専門分科学であり、とりわけ「体育授業をより良くしていくこと」を基本的なコンセプトとしている。体育授業づくり特論では、その中でも体育のカリキュラム論および学習指導論を基盤とした体育授業づくりや運動指導に関わる科学的知見について学修することを主目的に掲げる。具体的には、現代社会における体育の存在意義を考察するとともに、体育授業で扱われる全8領域の授業を構成する上で必要な教材化の視点について具体例を用いながら整理を図ること、体育授業をはじめとする運動指導全般に通ずる実践的指導力を向上させることを目標とする。

後講 平川 武仁 HIRAKAWA Takehito 教授

学位：博士(体育科学) 筑波大学

学問分野：スポーツ心理学
研究領域：競技スポーツ、健康スポーツ、学校体育

●研究指導内容 **キーワード**
知覚運動制御、運動学習

スポーツでプレーするとき、選手は主に視覚、聴覚、運動感覚を頼りにして、身体を合目的に制御する。特に、熟練選手は、日頃の努力によって、プレー時の合目的な動作や視線行動を獲得する。さらに彼らは、他の熟練者との動作の違いや対戦相手の動作・

行動を見抜く、眼のつけどころが優れている。これは熟練者が合理的・経済的な運動制御と眼球運動を獲得し、プレーに必要とされる身体運動を理解していることを示している。スポーツ心理学の中でも知覚運動制御に関する研究は、未熟練者と熟練者の眼球運動や巧みな動作の違い、そして心理的側面を検討する。また運動学習の研究は、巧みさを獲得する過程と、獲得過程に伴う心理的な変容過程を実証的に検討する。担当する授業や本研究室の取り組みでは、上記のスポーツ選手だけでなく、幼年から高齢者までの発達差や学校体育での運動習得にも幅広く研究の対象とし、スポーツ現場から実験室測定まで様々な環境で、人間の運動を検討していく。

後講 藤本 淳也 FUJIMOTO Junya 教授

学位：体育学修士 鹿屋体育大学

学問分野：スポーツマネジメント
研究領域：競技スポーツ、健康スポーツ、
レジャー・レクリエーション

●研究指導内容 **キーワード**
スポーツビジネス、スポーツ消費者行動、スポーツファン
シップ、チームブランディング、プロスポーツ、スポーツ振興

スポーツマーケティングは、スポーツ消費者の視点を軸としたスポーツの価値創造の理論と実践であり、その適応領域はプロスポーツ

組織から地域スポーツクラブまで、また、するスポーツからみるスポーツまで幅広い。「スポーツマーケティング論特論」では、スポーツマーケティング理論の理解、リサーチ力の向上、マーケティングプラン立案力の向上を目指す。具体的には、消費者の特性を一般製品・サービス・消費者との比較において、理論的に理解する。また、関連文献のレビューとディスカッション、スポーツビジネス界の情報収集を通してリサーチ力を高める。そして、これらを活かしてスポーツマーケティングプランを学び、スポーツビジネス界におけるマーケティング戦略企画力の向上を図る。

宮地 弘太郎 MIYACHI Kotaro 教授

学位：修士(体育科学) 日本体育大学

学問分野：教授学(指導方法学)
研究領域：競技スポーツ

●研究指導内容 **キーワード**
テニス、球技、ゲームパフォーマンス

コーチの由来は、ハンガリーの Kocs という場所、最初に作られた「屋根付きの馬車」kocsiに由来し、馬車が人を目的地まで運ぶことから、「コーチング」を受ける人=クライアントを目標達成に導くことが本質である。また、コーチング学は、現場で起きている実

践経験を帰納的に抽出し理論を一般化する領域である。本講義において球技(ネット型、ゴール型、ベースボール型)に焦点をあて、ゲームのパフォーマンスを、ソフト(SPORTSCODEGAMEBREAKER)等を用いて定量化する方法論を学習する。更には、球技パフォーマンス(特に実践現場)には数多くの要因が複雑に絡んでおり、量的にフィードバックするには困難である側面もある。したがって、質的な分析法(学習者の動きを改善するために用いる分析法)(運動の質に関する主観的判断)(運動の専門家の意見)を一般的、普遍的法則を用いてからのアプローチの手法も学習する。

石川 昌紀 教授

ISHIKAWA Masaki

学 位：博士（スポーツ科学）
University of Jyväskylä

学問分野：バイオメカニクス

研究領域：競技スポーツ、学校体育

●研究指導内容 **キーワード**

生体ダイナミクス、Stretch-Shortening Cycle、トレーニング、神経科学

神経・筋メカニクスでは、力学や神経生理学、解剖学などの知識を活用して、スポーツ・身体運動のしくみや身体運動の可能性と限界について探求する。身体運動中の中枢・末梢神経の役割、ダイナミックな身体運動中の骨格筋と神経系の相互作用、トレーニング、疲労、発育発達・加齢に伴う神経筋機能の変化などをテーマとして取り上げていく。巧みな動きの習得方法の開発、運動指導やトレーニングの科学的支援、ケガの予防やリハビリテーション方法といった応用研究に結びつけてゆける力を養うことを目的とする。とくに、中枢神経系の制御プロセス、伸張反射を代表とする末梢神経系のフィードバック、そして腱の弾性を効果的に利用する身体運動の制御プロセスに関するメカニクスの解明に着目する。

岡村 浩嗣 教授

OKAMURA Koji

学 位：博士（学術） 大阪市立大学

学問分野：スポーツ栄養学

研究領域：競技スポーツ、健康スポーツ、学校体育、レジャー・レクリエーション

●研究指導内容 **キーワード**

運動と栄養の相互作用、運動・栄養生理生化学

運動・栄養・休養は人間の生活の基本構成要素である。栄養とは生物が生存・成長するために必要なものを外界から取り入れ、これが体内で利用されることをいい、取り入れる物を栄養素という。この栄養素によって現れる種々の現象を栄養現象というが、これは運動や休息などの生活様式によって影響を受ける。このことは、栄養・食事を考えるときには「何をどのくらい食べるか」とともに「摂取タイミング」などの「どう食べるか」ということが重要なことを意味している。運動トレーニングの効果は運動後早期に栄養補給したほうが高いことはその一例であり、成長期の子供や高齢者が運動するときにも考慮すべきことがらである。ヒトの身体活動・運動を研究要素とする体育・スポーツ科学において栄養学を研究することの意義の一つがここにある。（研究室 HP www.okamurakoji.info）

◆2023年度は、指導学生の受け入れはできませんのでご了承ください。

下河内 洋平 教授

SHIMOKOCHI Yohei

学 位：博士（運動・スポーツ科学）
University of North Carolina at Greensboro

学問分野：バイオメカニクス

研究領域：競技スポーツ、健康スポーツ

●研究指導内容 **キーワード**

スポーツ医学、スポーツ障害・外傷予防、トレーニング、アスレティックリハビリテーション

急激な減速・加速動作を頻繁に行う球技などのスポーツでは、大きな負荷が選手の身体にかかりやすく、急性外傷や慢性障害が多く発生します。そのようなスポーツ選手の身体づくりにおいては、ただ単に力やパワー発揮能力の向上を図るだけでなく、スポーツ傷害を予防することが大きな課題となります。本研究室では、パフォーマンス向上とスポーツ傷害予防のための身体づくりの共通点と非共通点を明らかにすることを目標に、1) スポーツ傷害発生メカニズムの解明、2) スポーツ傷害の予防方法の開発や予防メカニズムの解明、3) 力・パワー発揮能力およびその向上に影響を与える要因の解明、4) スポーツ傷害を予防し、且つ、パフォーマンス向上につながる合理的な動作や神経筋制御様式の解明などを、テーマとして研究活動を行っています。（研究室ホームページ：<https://www.shimokochi.jp/>）

土屋 裕睦 教授

TSUCHIYA Hironobu

学 位：博士（体育科学） 筑波大学

学問分野：スポーツ心理学

研究領域：スポーツ文化、競技スポーツ、健康スポーツ、学校体育、レジャー・レクリエーション

●研究指導内容 **キーワード**

スポーツカウンセリング、メンタルトレーニング、競技力向上、チームビルディング、実力発揮、ストレスマネジメント

「スポーツカウンセリング論特講」では、アスリートに対する心理調査や、実際のスポーツカウンセリング事例を検討しながら、理論構築、技法開発等にかかわる実践的な調査研究を行う。また、スポーツカウンセリングにおいて用いられる面接技法やメンタルトレーニング技法、チームビルディングの技法を習得するために、スーパービジョンを伴う現場実習を行う。このように、統計的手法を中心としたスポーツ科学の調査研究と事例研究を中心とした臨床スポーツ心理学的研究に取り組みながら、スポーツカウンセリングの専門家（Scientist-practitioner）としての資質を高める。博士の学位取得と同時にスポーツ心理学会認定「スポーツメンタルトレーニング指導士」資格の取得を目指す。

富山 浩三 教授

TOMIYAMA Kozo

学 位：博士（スポーツ科学） 大阪体育大学

学問分野：スポーツマネジメント

研究領域：スポーツ文化、競技スポーツ、健康スポーツ、レジャー・レクリエーション

●研究指導内容 **キーワード**

スポーツマネジメント、スポーツ行動、スポーツプロモーション

人々のスポーツへの参画がもたらす効果は、健康作りやストレス解消といった個人的な効果から、現代社会が抱える諸問題の解決に向けた社会的効果へと広がりを見せている。スポーツマネジメント研究室では、スポーツ消費者による「する」「見る」「支える」といったスポーツ消費行動について、マネジメントの視点から分析を行う一方、プロスポーツチームの地域密着戦略や地域活性化のツールとして注目を集めているスポーツと地域、スポーツと都市の関係、スポーツツーリズムについて研究を行う。スポーツまちづくりやスポーツ推進は、スポーツ政策とも深く関わっており、スポーツ基本法とスポーツ基本計画なども研究テーマとなる。

浜田 拓 教授

HAMADA Taku

学 位：博士（人間・環境学） 京都大学

学問分野：スポーツ生理学

研究領域：競技スポーツ、健康スポーツ

●研究指導内容 **キーワード**

運動、トレーニング、骨格筋・脳、糖・脂質・乳酸代謝、ミトコンドリア、遺伝子、栄養

主な研究テーマは運動による骨格筋と脳のエネルギー代謝適応効果である。運動生化学特講では、一回の急性運動による生体の迅速な代謝適応や慢性的な身体トレーニングによる代謝適応の効果とその機序に関する研究に着目し、生理・生化学的ならびに分子生物学的手法を用いて解明していく。特に、骨格筋と脳は、体内最大のエネルギー消費の主要な標的臓器であり、骨格筋や脳における代謝機能の不全は、生活習慣病の発症や認知機能の低下に関連する。そのため、本特講では骨格筋と脳に着目して、研究テーマを決定していく。ヒトから動物実験までを対象として、運動が生体のエネルギー代謝機能を高める効果とその機序を中心に分子レベルで検証していくことで、生活習慣病や認知症の予防、中高齢者の健康増進における運動プログラムの開発に繋げていく。

前島 悦子 教授

MAESHIMA Etsuko

学 位：博士（医学） 和歌山県立医科大学

学問分野：スポーツ医学

研究領域：競技スポーツ、健康スポーツ、学校体育

●研究指導内容 **キーワード**

スポーツ医学、中高齢者、生活習慣病、運動療法

「スポーツ医学」領域は、競技スポーツだけでなく、健康維持、増進のための健康スポーツや疾病の予防・治療のための運動療法などを含む。このスポーツ医学領域の中でも、スポーツをする際や指導する際に重要な内科学領域の医学的知識全般を学ぶ。得られた知識を基に、子どもや女性、中高齢者などを対象に、体力の維持、増進を目的とした運動指導を実践し、その中から、問題点や疑問点を明らかにする。この問題点や疑問点の中から学生が研究テーマを決定し、その課題に取り組み、論文を作成する。この一連の学習過程を通して、社会の様々なニーズに応えられる指導者を育成する。